

平成28年度学校評価(年度末評価)

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立			
教育目標	”感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成			
今年度の学校経営方針	グローバル時代にあつて、世界と伍して競って生き抜く青年を育成するためには、主体性をもって、創造的、協働的に問題を解決する能力を身に付けることが必要である。 とりわけ、コミュニケーション力を強化して好ましい人間関係を構築すること、情報通信機器の活用精通することなどが求められており、言語環境の整備、言語活動の充実、ICT活用等によるアクティブ・ラーニングの奨励・実施に努めるとともに、SGH活動の一層の安定・発展を図っていく。 長い人生において、高等学校の三年間こそ、心身ともに最も成長する期間で、精神、学力、肉体を鍛え上げる絶好の時期である。創立者の高邁な「建学の精神」を踏まえ、星城教育の原点に立ち返り、規律を重んずる学校生活の中で、幅広く知識を吸収し、逞しい体力を身につけ、次代を担うにふさわしい人間味あふれる青年に成長できることを目指し、「四つの柱」(礼節、進学、スポーツ、国際交流)と「四つの保証」(安全、規律、学力、進路)を掲げて、教育活動を推進する。			
今年度の重点目標	I 規律ある学校生活の定着 IV SGH活動の推進 VII 安全・健康の保持増進	II Dゾーン(学習到達度の低い層)の生徒の減少 V 国際交流の活性化 VIII キャリア教育の推進	III アクティブ・ラーニングの取組拡大 VI 特別活動の活性化	
重点目標	評価項目	担当	具体的方策	実施状況(◎実施したこと。*今後の改善点。)
I 規律ある学校生活の定着	遅刻・欠席数の低減	生徒指導部	○担任による毎日のクラス指導を徹底する。 ○集会や講話を通じて、生活習慣が確立できるようにする。	◎集会や講話での説諭を徹底した。 ◎欠・遅・早ゼロ週間の結果をすばやく報告し、クラスの意識を高めた。達成したのは1年5クラス、2年11クラス、3年11クラスである。 *学年会と協議し、連携を図る。
	予鈴・着席・授業準備の定着		○級長指導を徹底し、リーダーを中心とした自修的努力を引き出す。	◎級長指導の徹底でリーダーシップを引き出すことができ、集会等を円滑に進めることができた。 ◎昼休みを中心として、不定期に校内巡視を実施した。ほとんどの生徒が予鈴で入室している。
	挨拶と身だしなみの向上		○毎朝の校門指導で生徒の自主性を引き出す。 ○担任による毎日のクラス指導を徹底する。 ○制服の着こなしに関する講話を1学期に実施する。制服の乱れが顕著な場合は保護者の協力を得て指導を徹底する。また、女子生徒のスカート丈に全職員で厳しく対処する。	◎毎朝の校門指導で自主的な挨拶、礼節、みだしなみを促した。 ◎制服の着こなし講話を1学期に実施した。 *生徒指導部と学年との連携が不十分であったため指導の即時性に問題が残った。来年度は連携を密にして取り組む。
		仰星コース 生徒指導部	○職員が率先してさわやかな挨拶を心がけ、生徒の挨拶を促す。 ○身だしなみ指導は、全職員で毅然とした態度で取り組む。特に集会時での指導の徹底を図る。	服装頭髪検査不合格者はごく少数であり、概ね良好である。 *朝の立ち番指導を通して、もう少し大きな声で挨拶できるように指導していく。
	時間を意識した行動		○不用意な遅刻をした生徒に対して、クラス担任・生徒指導部が指導に当たり、注意喚起を促す。 ○授業の50分完全実施のため、教科担当者が率先して始業時刻を意識して行動し、生徒に範を示す。	*チャイムと同時に授業開始ができていないところもあり、来年度は改善を図る。
	心を込めた作業		○何事においても心を込めて作業する姿勢を醸成する。特に清掃において、使用する人の目線に立って丁寧な清掃を心がける。	◎大掃除やボランティア清掃に取り組む生徒の姿勢はひたむきで非常によかった。 *日常清掃では、7限終了後からの清掃場所への移動がやや緩慢であり、7限目の授業担当者と協力して改善を図る。
	制服の正しい着用	第1学年	○授業時の号令を統一し、服装を正してから礼をする。	◎「服装を正して」を号令に加えることを級長に指示し、各クラスが実行できた。 ◎継続指導者に対して、該当担任や生徒指導部副主任が粘り強く指導した。 *生徒指導部との連携をいっそう密にして指導に当たる。
	生徒主体の活動		○学年リーダー、副リーダーを決め、学年集会等はリーダーが中心となって各行事の運営をする。	学年の正副リーダーが中心となり学年集会等では生徒だけで静かに整列・点呼できた。 ◎教員が大声を出さずに生徒の自主的行動を促した。 *司会なども生徒が行うように計画したい。
	礼節	第2学年	○服装頭髪指導を徹底して、再検査者、継続指導者ゼロを目指す。朝学習の時間に各クラスを巡回し、生徒への声かけをする。また、服装頭髪の継続指導者には週1回の確認や指導を重ね、改まらない場合は保護者に來校して頂き、生徒指導副主任・学年主任が説明を行うとともに、本人を説諭する。 ○書道コンクールなどを実施し、規律ある学校生活を啓発する。	◎朝学習の時間中に学年主任が生徒の様子を見る目的で各クラスを巡回するとともに、明るい学年を目指して挨拶の励行を喚起した。 ◎副担任による朝の挨拶指導、固定副担任による生徒への指導ができ、落ち着いた学年集団となった。 ◎配慮を要する生徒への家庭連絡を担当者が迅速に行うとともに学年集団で対応した結果、学校と家庭で情報共有ができた。昨年度実施した礼節を啓発する書道コンクールが今年度は学校行事の都合で実施できなかった。 *行事日程や他学年の行事と調整を図りながら、学年リーダーへ発案・企画を促し、生徒主体で動くことにする。
	生徒の適性に応じた進路の決定		第3学年	○定期テストや校外模試、面談等を通して、生徒の学力や進路希望、進路適性を正しく把握する。その上で、生徒個々に応じた進路指導を行う。
在籍生徒全員の卒業	○基本的生活習慣の定着を図る。 ○授業規律の向上に取り組み、生活面と学習面ともに良好な結果にする。 ○生徒の心のケアに取り組み、生活と学習の両面とも良好にし、在籍生徒全員の卒業を目指す。 ○進路決定後も目標をもって学校生活に取り組ませる。	*普通コースにおいて、進路決定後の遅刻の増加など、生活習慣の乱れや学習に対する意識の低下が見られた。		

	遅刻・欠席の低減	仰星コース 第3学年	○朝のST前10分間を用いて、「10分間朝学」(小テスト等)を実施し、遅刻者減少に努める。各学期の設定月(5月と10月)における遅刻者数を学年全体で集計する。	◎小テストを実施することで、遅刻者数は少なくなった。 *遅刻者を減らすという目的にかかったデータが得られるよう工夫する。
II D ゾ ン 生 徒 の 減 少	検定試験の受検推進	第1学年	○漢検、英検、数検などの検定受検を促す。	◎学年で生徒・保護者に対する広報を積極的に行った。 ◎担任や授業担当者が熱心に受検を生徒に促した。
	Dゾーン生徒数の低減		○朝学の実施をDゾーン脱却につなげる。	◎生徒が朝学にしっかりと取り組むよう指導できた。 *数学の学力向上の取組が不十分であった。
	学習意欲の増進	仰星コース 第1学年	○SGH活動を通して、生徒たちの自主性、学ぶ意欲を喚起し、その結果としてGTZのレベルアップを図る。	*基礎学力定着のために、課題指導を改善する。
	35点未満者指導の充実	仰星コース 第3学年	○1学期35点未満者に対する特別指導において、与えられた課題の進捗状況を担任が把握し、35点未満者テストに合格させる。	◎課題の進捗状況を担任がほぼ把握した。 *個々の生徒の学習計画を定期的に確認するなど、学年・教科・学習指導部の連携をいっそう図るようになる。
	実力テスト結果資料の提示と学習指導部だよりの発行	学習指導部	○担任や授業担当者等による学習指導や面談により、生徒の学習意欲を高め、学習時間の増加とテストに臨む姿勢の改善を促し、Dゾーン減少につなげる。その学習指導や面談に活用するために、①教科主任や担任に実力テストの結果を提示する。②定期テストや実力テスト結果の分析を中心とした「学習指導部だよりの」を1・2年生は年9回、3年生は年6回発行する。	◎実力テスト結果の提示や学習指導部だよりの発行は予定通り行った。担任による面談は多くの担任が実施できた。 *実力テストDゾーンの減少は不十分であった。次年度の1・2年生ではClassiを利用して、学力向上に取り組む。
	職員研修への参加と活用	教育研究部	○基礎学力の向上に関する内外の研修会情報を収集し、職員に奨励する。また、教職員が研修会で学んだことを授業に活用し、指導力向上に繋げられるように環境を整える。	現職研修アンケートの結果、「参加した研修が教育活動に役立った」と感じた職員は研修参加者の83.3%(昨年比+14.9%)であった。また、第4回の内部研修会参加者は職員全体の90.0%(昨年比+9.8%)であった。 *今後の内部研修会については、可能な限り全職員が出席でき、日常の教育活動に役立つ内容で計画立案する。
	35点未満者指導の充実		○1学期や2学期の35点未満者指導を、生徒に課題を課して1時間の補講を実施した上で、35点未満者テストを受けさせることとする。そして、このテストに合格させることにより、基礎基本の定着を図る。	◎今年度も昨年度と同様に1学期と2学期の35点未満者に、補講とテストを実施することができた。 *普段の学習記録に取り組むよう指導し、35点未満の生徒を減らしていく。
	長期休暇中の計画的な学習	仰星コース 学習指導部	○学習計画表を書かせて、長期休業中の学習に計画的に取り組ませることにより、生徒の実力アップを図る。そして、計画表を回収し、実施状況を確認する。	◎7月上旬には「夏休みの学習計画表」を、12月上旬には「冬休みの学習計画表」をそれぞれ作成して配布した。 ◎夏休み分については、生徒の反省欄や学級担任の検印欄を設け、夏休み後に学級担任が点検した。 *休み明けの計画表の回収率は最終的には100%であったが、ずさんな計画もあった。今後は自己評価欄を設けて生徒に意識向上の取組を進める。
	スタディーサポートGTZの向上を意識した学習の徹底	仰星コース 進路指導部	○毎日の学習に漫然と取り組むのではなく、ベネッセのGTZを上げることに主眼を置いてやるべき学習を確実にこなし、常に自己点検して学習に甘さが出ないように注意喚起を行う。 ○すべての教員で生徒一人一人の成績を共有し、学力向上に有効な指導を適宜行う。	◎第1回の結果を各自の進路カルテに記録させ、GTZ評価S~Dのレベルを把握させことで、第2回に向けて判定を上げるとの意識を高めた。 *2年生の結果が芳しくなく、3年生に向けて進路を強く意識づけ、受験科目の学力向上に努力させたい。
	全統模試のレベルを意識した学習の徹底		○毎日の学習を自己満足に終わらないように、到達目標を全統模試のレベルに設定させ、常に自己点検して学習に甘さが出ないように注意喚起を行う。 ○模試の問題の見直しと、出題のポイントを分析させ難易度の把握に努めさせる。 ○授業で受け身にならないために、模試範囲を学習のペースメーカーにさせる。	◎模試の年間日程を教室掲示し、各回の模試の1か月以上前から出題範囲を教室掲示し、意欲喚起を行った。また、過去問を各教室に準備するとともに、必要に応じて補習等で過去問解説を実施した。
入学者の学力レベル向上	入試広報部	○私立高校全体の動向を調査する。とりわけ学力レベルや募集地域が競合する私立学校の募集レベルの変動に注意する。また、推薦入試規定や一般合格基準の考察を行い、入学者の学力レベル向上を押し進める。	◎近隣の私立学校の募集基準を調査し、募集入試委員会で募集基準を設定した。一般入試、推薦入試とも評定基準を引き上げた。 *今後は一般・推薦の入学教等を分析し、中期計画に沿って基準を引き上げるかどうか検討する。	
III ア ク ティ ブ ラ ー ニ ン グ の	海外(ベトナム)修学旅行における事前・事後学習の充実	仰星コース 第2学年	○海外の修学旅行に向けて、現地の文化、歴史、政治などの状況を個々に調べさせ、有用な情報を修学旅行のしおりに反映させて、生徒の共通認識とさせる。 ○海外修学旅行に向けた事前学習において生徒が個々にテーマを持ち、修学旅行中の現地での交流会などで情報を集め、自分なりの結論を導き出すよう指導する。文集の形で論文集を作成する。	◎ベトナムの文化、歴史、政治などの状況を調べさせ、その結果を文化祭の展示で発表できた。また、しおりの記事にも反映することができた。 *今年度は、初のベトナム修学旅行であり、指導期間が十分に取れなかった。今後は指導を計画的に行い生徒全員が満足できるように検討を重ねる。 ◎修学旅行に際して「①何を学んだか ②これからの日本人は国際人としてどうあるべきか」の観点で自分の考えを示すレポート・感想文を書くよう指導し、修学旅行実施後に「ベトナム修学旅行レポート・感想文集」冊子を作成して、生徒に配布した。他の生徒の考えや感想に触れることで自分の学びをより多面的に認識するよう指導した。 *今後は、レポート作成の際には、形式をより具体的に指定し、生徒の個性や考え方がいっそう表現できるようにしていきたい。
	研究授業旬間の授業型の変更と学習指導部所属教員の積極的な取組	学習指導部	○アクティブ・ラーニング実践教員を増やすために①研究授業旬間はアクティブ・ラーニング型授業で実施し、研修・研究の機会として利用する。また、②学習指導部所属教員が積極的にアクティブ・ラーニング型授業を取り入れることで普及に努める。③生徒による授業アンケートで授業評価を行う。	◎研究授業旬間に担当教員はアクティブ・ラーニング型授業を実施した。また、学習指導部所属教員も積極的に取り組んだ。 *今後、ICT機器を利用したアクティブ・ラーニング型授業を推進していく。

取組拡大	アクティブ・ラーニングの理解促進	教育研究部	○教職員が教授法としてのアクティブ・ラーニングを十分に理解できるよう、内外研修会を企画または紹介する。また、アクティブ・ラーニングに取り組みやすい環境を整える。	◎今年度末からICT機器の導入が始まり、その活用とともに、現職研修を利用したアクティブ・ラーニングの理解とその実践の広がりを少しずつ推進できた。 *職員の授業改善への取り組みを支援したい。
	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善	仰星コース学習指導部	○授業改善の一つの方法として、導入や展開の一局面で、仰星にふさわしいアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を呼びかける。また、生徒による授業アンケートの中で、アクティブ・ラーニングの授業評価も実施する。	◎6月に、ICTを利用した授業に関する質問事項を設定して授業アンケートを実施することができた。 *アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の呼びかけがほとんどできなかったが、多くの授業で考えさせる発問は行っていたので、今後はこれをアクティブ・ラーニングにつなげるための教員の意識化を進める。
IV SGH 活動の 推進	交渉学の充実	仰星コース第1学年	○アジア学を通して、アジア問題発見力や問題解決力を養い、アジアンシチズンとしてアジアの持続可能な発展に貢献できるグローバルリーダーを育成する。 ○プレゼンテーション力、情報発信力も育成する。	◎初めてのディベートであったが、指導担当者の説明等は丁寧でわかりやすく行えた。 *隔週での学習であったため、継続性にやや欠ける面があった。次年度以降は弾力的な時間割編成にしたい。
	アジア学の充実		○アジア学を通して、問題発見力・問題解決力を養い、アジアンシチズンとしてアジアの持続可能な発展に貢献できるグローバルリーダーを育成する。またプレゼンテーションにおいて、情報発信力も育成する。	◎様々な分野の専門家を招いて貴重な話を聞くことができた。 *講師によって生徒の満足度にバラツキが出ていた。講師の精選を行っていく。
	仰星コース推薦入学者の増加	入試広報部	○SGHアンソシエイト指定校として「SGHのよさ」を十分に広報する。今年度から取り組む「SGH交渉学」など、具体的実践を広報し、仰星コース入学者の増加を図る。	◎トヨタ自動車及びDENSOの海外研修担当者との情報交換を行うとともに、私学展や中学校からの相談に応じて個別の進路相談を行った。 ◎帰国子女や英語能力の高い外国人が推薦で入学した。 *SGHに関心を寄せる中学生は少数であるため、いっそうの広報活動に取り組みたい。
V の国際 性交流	アメリカ短期留学の実施	庶務部	○四つの柱のひとつである国際交流についての理解を深め、アメリカフロリダ短期留学を滞ることのないように進める。 ○ネイティブスピーカーによる会話練習などの事前学習を徹底し、海外派遣留学生の語学力を高める。 ○事後には、学校説明会などで留学の成果を発表する。	◎短期留学に向けて事前学習(90分×10)を行うことができた。短期留学の目的に合った内容で、十分な指導ができた。 ◎学校説明会での成果発表も、多くの中学生に興味関心を与えることができた。 *参加者の選考方法を改める。試験の成績上位者を参加させるのではなく、留学への思いや情熱、参加することがその生徒にどのように影響を与えるかまでを見極めて選考する。
VI 特別 活動の 活性化	修学旅行事前学習の充実	第2学年	○自修的努力を促すため、修学旅行委員会を立ち上げて沖縄について事前学習を行い、3階アトリウム西側スペースに学習内容を発表する。 ○修学旅行中の集団行動では、生徒一人一人が主体的に行動することを旨とする。	◎5月末に修学旅行委員会を立ち上げ、各クラスの委員を中心に活動するよう指導し、生徒の能動的学習を引き出すことができた。 ◎修学旅行前に、パワーポイントを活用した生徒主体の平和学習会を実施した。修学旅行後の感想文には事前学習が役立つとの記述があり、現地での学習を深める一助となった。 ◎修学旅行事前学習の壁新聞を掲示したことにより、旅行の意義や目的を生徒に周知できた。 ◎各コース1名ずつ、計4名からなる学年リーダーを選び、6回の学年リーダー・級長会を実施し、生徒主導で落ち着きある学年集団となった。 *4月から自修的努力を促してきたが、一部の生徒が集合時刻を守れなかった。タイトな旅行日程の見直しが必要である。
	進路目標の設定と自己実現に向けた指導の充実	仰星コース第2学年	○LTなど普段のホームルーム活動時に、進路に関する情報を多面的に生徒に提供し、進路実現に向けた意欲を喚起し、将来の自分のあるべき姿の目標を設定させる。 ○LTやSTの時間などに、生徒の目標達成のための基礎力を養成する学習企画を設定し、実行する。	◎JICAや自然科学研究機構の施設訪問、夢ナビライブ(大学展)に第2学年全員を引率し指導した。また、日頃のSTやLTにおいて、大学情報冊子を配布して、自分の進路を模索するよう促すことができた。 ◎毎日、朝と帰りのSTで数学や英語のプリントに取り組むように指導した。
	外庭除草の励行	教育相談部	○校内の環境整備を目標に、花壇の整備を行う。	◎積徳館南トンネル横の荒地は、セイダカワダチソウやハギ等の草が生え放題であったが、夏前より草取りを始めたことにより背の高い草はなくなり、花壇として使えるようにした。 *継続的な草取りと、瓦礫の除去、土の入れ替えに取り組むたい。
	ボランティア清掃の充実	庶務部	○ボランティア清掃への意義・目的の周知を図る。また、教員の参加も募る。	◎今年度は教職員の参加も募り、多くの職員がボランティア清掃に参加した。 *以前に比べ、町中のゴミが少なくなってきたと感じる。今後は、清掃活動だけでなく他の奉仕活動にも取り組みたい。
	広報活動による部活動支援		○部活動の支援推進を目的に、可能な限り取材に出向き、広報活動に努める。 ○全国大会に限ることなく、東海・県・地区などの大会にも目を向け、これまで掲載の少ない部活動や文化部の広報活動にも努める。	◎星雲の発行、星雲号外の発行を通じて星城生の活躍を伝えることができた。また、ホームページのブログを通じて、リアルタイムな広報もできた。 *地区大会や予選会などを取材するのは容易ではない。各クラブ顧問やマネージャーなど生徒の手による取材を通じて、細かなところまで広報できる体制を作りたい。
	部活動の運営の把握と管理	部活動支援室	①部活動の活動状況を把握し、安全確保に留意した指導の徹底を図る。 ②部活動の意義、運営に対する理解を深め、全国大会出場を目指す。	◎部の活動状況や運営・管理などを調査し、活動状況一覧表にまとめた。 ◎各種大会日程年間一覧表と各種大会日程案内を作成し、掲示板にて生徒への広報を行った。 ◎庶務部等の協力を得て、多くの生徒・職員が大会会場での応援に参加した。
強化クラブ・アスリート特進の運営	①四本柱の一つである「スポーツの星城」を募集戦略として、広報に役立てるよう入試広報部と連携を図る。 ②奨学生採用計画に基づいたスカウト活動の徹底を図る。		◎強化クラブ顧問と入試広報部とが連携してスカウト活動に取り組んだ。 *奨学生区分と奨学生採用枠の見直しを行い、採用計画に基づいたスカウト活動をいっそう徹底する。	

	文武両道の生徒獲得	入試広報	○「敢えて二兎を追う」をコンセプトとするアスリート特進コース1回生の進路結果をパンフレット等を用いて広報し、さらに多くの生徒を獲得する。	◎パンフレットの作成は断念したが、地道な広報活動に取り組み、「アスリート特進コース」の認知度はずいぶん高くなったと感じる。 ◎「アス特」に入りたいとの希望が多く聞かれた。入学者の学力も高い。 *アス特の選考基準を再考するとともに、奨学生以外のスポーツ推薦生が獲得できるようにする。
VII 安全・健康の保持増進	通学マナーとモラルの向上	生徒指導部	・毎日の交通指導で安全を見守る。 ・登下校指導により通学路を守らせる。 ・警察による交通講話を3学期に実施する。 ・女子生徒のスカート丈に全職員で厳しく対処し、安全を守り、評価を下げさせない。	◎交通指導のポイントを絞り、重要ポイントの指導を毎朝行った。また、下校指導の人員配置を増やして登下校の指導にあたり、自転車通学者への苦情は大幅に減少した。 *女子のスカート丈は少しは改善しているが、全校挙げての指導体制ができるようにしていきたい。また、マナー指導の強化を図っていく。
	交通事故撲滅		・毎日の交通指導で安全を見守る。 ・登下校指導により通学路を守らせる。 ・警察による交通講話を3学期に実施する。 ・4月の自転車通学者指導で安全意識を高める。	◎下校指導を強化し通学路遵守やマナー指導に取り組んだ(教員の当番制)。 ◎警察官による交通講話を行った。 *交通安全指導とともに、事故後の対応も指導していく。幸い重篤な事故には至っていない。
	不登校生徒の登校への取組の充実	教育相談部	○スクールカウンセラー・担任・学年主任・教育相談部が連携を図り、不登校生徒が少しでも登校できるように支援する。	◎スクールカウンセラーとの面談やきめ細かな担任指導を行った。 ◎教育相談部と担任・学年主任、保護者との連携を密にして生徒に対応した。 *中学時に不登校であっても保健室登校等で欠席日数の少ない生徒もおり、こうした生徒をできるだけ早く把握するように努めたい。
	安全管理の徹底	部活動支援室	○体罰や部活動中の事故、ケガをなくすため、教職員に対し管理指導を定期的に行う。 ○部活動施設の設備の点検など、安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。	◎部活動における指導や施設の安全管理等について調査を行った。 *部活動顧問の高齢化による部活動存続の問題への対応や複数顧問制による安全確保を徹底する。 *部活動施設の設備・整備のための予算化を行い、施設の改善と安全管理に努める。
VIII キャリア教育の推進	国公立大学・有名私立大合格者数の増加	進路指導部特進担任会	○1・2年生の授業・特進講座・特進合宿などについて連携会議を設け、各教科担当者との意思疎通を図る。 ○大学入試センター試験は5教科型受験を目標にして1年生から指導に取り組む。 ○数値目標だけにとらわれず、生徒個々の能力や特性に応じた教育を心がけ、学習意欲向上を促す。	◎1、2年生の11月進研模試は、各担任の教科が概ね目標を達成した。 ◎授業や特進講座、特進合宿などで各教科担当と特進担任会との連携が図れた。 ◎センター試験は、特進・アス特的の生徒全員が5教科型を受験した。 *生徒個々の能力や特性に応じた指導をさらに進めていく。
	星城大学進学者の増加	進路指導部	○第3学年と進路指導部が一体となり、内部AO、内部推薦に向けて、全生徒との個人面談を行い、6月2日などのオープンキャンパスに保護者の参加を促す。 ○星城大学に興味を示す生徒・保護者をすみやかに大学入試広報室に連絡するなど、高大連携を密にして進める。	◎内部AO、内部推薦に向けて係り教員による個人面談を全生徒と実施し、関心を示した生徒や保護者には星城大学入試広報との面談を行った。 *高大の連携をいっそう密にするとともに、星城大学のよさを生徒に積極的に伝えていく。
	第一次就職試験内定率の向上	進路指導部	○筆記試験や適性試験に備えた対策問題集の学習会を、授業後や放課時間に行う。また、生徒の学習状況を把握する。 ○面接の対策として、ハローワークや担任の協力を得て個人・集団面接の演習を生徒一人10回以上実施する。	◎ハローワークの協力を得るとともに、担任、就職担当者による生徒面接を生徒一人当たり10回以上行った。 *対策問題集を購入して自主的に学習させたが、学習会は実施できなかった。来年度は、就職対策の補習を実施する。
	学外教育機関等への訪問、見学、体験並びに進路講話の充実	仰星コース進路指導部	○分子研やJICAの見学、夢ナビプログラムやオープンキャンパスへの参加、ベネッセや河合塾による進路説明会、社会人として活躍する卒業生による講話、イングリッシュキャンプや海外研修などの実体験を通じて社会で求められる能力や人材を理解させる。	◎キャリアガイダンスとして分子研での研修や、JICA訪問、夢ナビプログラムの実施、ベネッセ進路講話、イングリッシュキャンプ、SGH海外研修など多様な取組を行った。
学校関係者の主な意見	○ 学校評価の資料を見ていると、星城高校は「何もしない生徒」を育てているように見える。教育における「動き」が感じられない。生徒を押さえ込んで「よい子」を育てようとしているようだが、どうかと思う。もっと「はみ出す生徒」を育てるほうがよいのではないか。 ○ 「生徒を、このようにほめています」との資料も出していただきたい。 ○ 学校からの説明に図書館が活性化しているとの話があった。そういった具体的なデータも出していただきたい。			